



5ff8246e76ef8

医療機関名：PMCクリニック
受診日：2023/4/1
受診者名：サンプル タロウ
カルテID：123456789
備考欄①：
備考欄②：

アルツハイマー型認知症リスク検査報告書

Prodrome-AD

プロドロームエーディー

Prodrome-ADは、米国で行われた疫学研究に基づき、あなたの検査結果と類似した検査母集団(群)における、統計的なアルツハイマー型認知症の発症リスクを指標化したものです。

*本検査は疾患の診断や将来の疾患発症を確定するものではありません。

*基礎疾患やその他遺伝的要因等によってもアルツハイマー型認知症の発症リスクは変動いたします。



氏名 サンプル タロウ 様

性別 男性

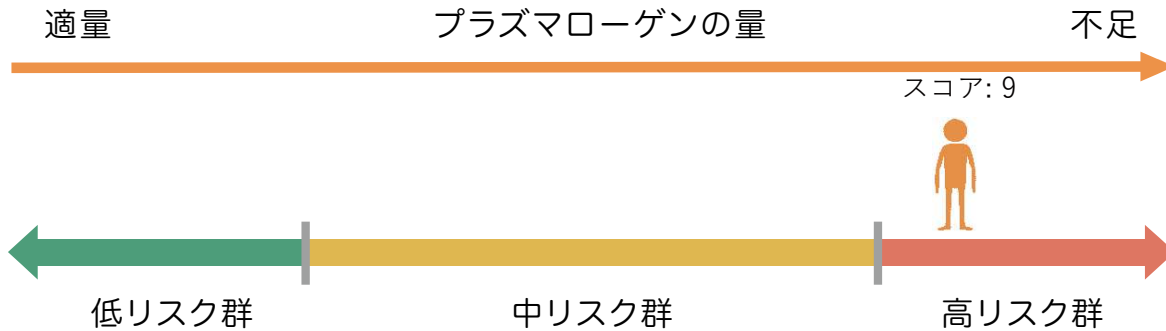
年齢 47歳

受診日 2023/4/1

カルテID 123456789

Prodrome-AD判定結果

プラズマローゲンの値は大幅に不足しており、**高リスク群**に分類されました。



結果コメント

プラズマローゲンは脳の機能を健全に保つために必要不可欠な成分です。

今回の検査結果では、プラズマローゲンの値が低下しており、高リスク群に分類されました。

必要に応じて専門医の受診や認知機能検査の受診をご検討下さい。

(各)リスクの分類について

低リスク群

スコア: 86-100

リスク因子(P3参照)を避けて、健康的な生活習慣をこころがけましょう。
また、リスク管理のため本検査の継続的な受検をおすすめします。
*「低リスク」群であっても疾患の発症可能性が否定されるものではありません。

中リスク群

スコア: 16-85

喫煙習慣や肥満といったリスク因子(P3参照)をお持ちの方は、
生活習慣を見直し健康的な生活習慣をこころがけましょう。
また、リスク管理のため問診による検査や本検査の定期的な受検
をおすすめします。 ※1年に1度程度

高リスク群

スコア: 0-15

自覚症状や他者からの指摘がある場合には、医療機関ともご相談の上、
専門医の受診をご検討ください。
※必要に応じて認知機能検査などの受診もおすすめします。

※あくまでも一例です。必要に応じて専門医の受診や認知機能検査などの受診をおすすめします。

アルツハイマー型認知症のリスク要因

アルツハイマー型認知症は、様々なリスク因子が関与しています。予防の第一歩としてリスク要因を把握し、規則正しい生活習慣をこころがけましょう。

アルコール・喫煙



認知症の高齢者の29%は大量飲酒が原因の認知症と考えられたという調査結果があります。

ストレス・社会的孤立



孤独感を抱いている場合、脳内での老廃物の蓄積が進む可能性があり、アルツハイマー型認知症の発症リスクが高まります。

運動不足・肥満



研究開始時に肥満であった人は標準体重の人に比べて、認知症発症リスクが31%高いことが明らかになったという研究があります。

糖尿病



久山町研究によると糖尿病患者はアルツハイマー型認知症の発症率が高いという報告があります。

参考：国立長寿医療研究センターによる研究より抜粋

プラズマローゲンの量を改善するために・・・

プラズマローゲンは、体内では抗酸化作用の役割を果たしており、酸化ストレスによって引き起こされるさまざまな病気などから私たちの身を守っていると考えられています。

ホタテ/ホヤなどの貝類、鶏むね肉に多く含まれており、効率的に摂取するためにはサプリメントも有効です。

ホタテ/ホヤ



DHA（ドコサヘキサエン酸）やEPA（エイコサペンタエン酸）といった ω -3系長鎖多価不飽和脂肪酸が高含有であることと、ヒトの脳組織に多く存在するプラズマローゲンの型が多いといわれています。

鶏むね肉



鶏由来プラズマローゲンはオレイン酸という抗酸化力の優れた脂肪酸を多く含有しています。鶏由来のプラズマローゲンは、脳の神経細胞を保護する有効な素材であると考えられています。

サプリメント



日々の食生活を改善することが最も重要ですが、サプリメントを活用することで効率的にプラズマローゲンを摂取することが可能です。

※Prodrome-ADは医師の診断を代替する検査ではありません。

※認知症の診断は、その他の健康診断の検査結果や精密検査の結果をもとに総合的に判断されるものです。

◆Prodrome-ADについて

検査概要

本検査では6種類のプラズマローゲン血中濃度を測定しています。プラズマローゲンは、脳の機能を健全にするために必要不可欠な成分です。プラズマローゲンが十分に存在していれば認知機能低下のリスクは低くなりますが、プラズマローゲンが減少すると認知機能が低下すると考えられています。

プラズマローゲンは認知症発症の前段階から減少すると考えられており、プラズマローゲンの量を定期的に測定することで認知症の予防につながることが期待されます。定期的な検査の受検に加えて、日々の生活習慣を改善し、予防に努めましょう。

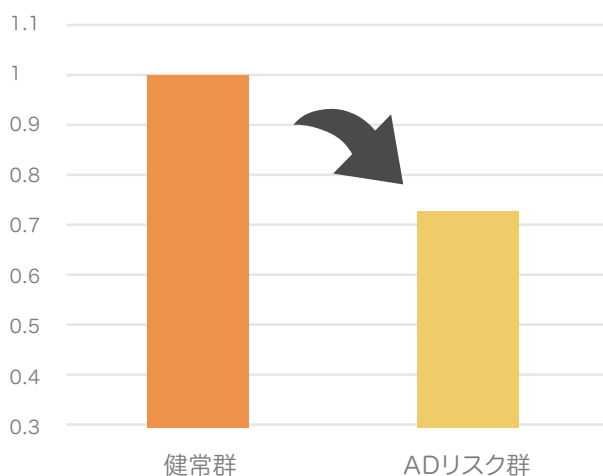
結果について

プラズマローゲンの測定量によって低リスク群、中リスク群、高リスク群に分類しています。統計的に高リスク群の場合は、低リスク群に属する方に比べて5倍、中リスク群の場合は、低リスク群に属する方に比べて2倍以上認知症の発症リスクがあることが報告されています。

受検後の対応

生活習慣を見直してリスクの低減に努めるとともに、定期的な検査の受検をおすすめします。日々の食生活からプラズマローゲンを積極的に摂ることを意識しましょう。

◆プラズマローゲンと認知機能について



日本人においてアルツハイマー型認知症の可能性の高い80名の被験者群と認知障害のない健常被験者群80名を比較したところ、アルツハイマー型認知症の可能性の高い群で優位にプラズマローゲンの量が減少していることが明らかになっています。プラズマローゲンを積極的に摂取することで認知機能の低下を予防しましょう。

出典: Dayan B. Goodenowe, et al [Peripheral ethanolamine plasmalogen deficiency: a logical causative factor in Alzheimer's disease and dementia]